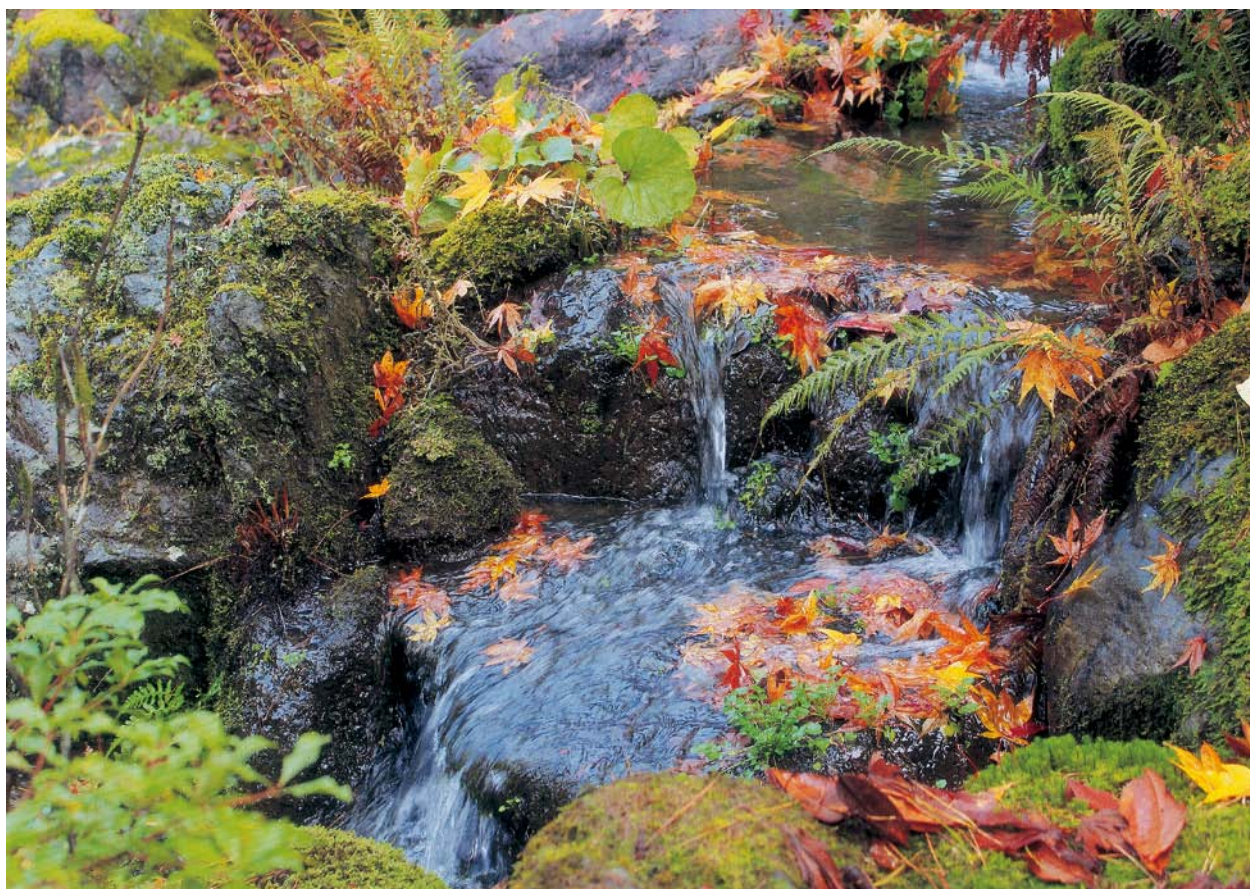


福 井 県 医 師 会

だより

第641号 平成26年(2014)11月



那谷寺の秋 福井市 吉村 信

表紙写真説明：那谷寺の秋

福井市 吉村 信

秋の日、小春日和の那谷寺を訪れた。

空は澄み陽光は輝き、境内の清冽な小川には紅葉が流れ「千早ふる神代もきかず龍田川からくれなゐに水くくるとは」の古歌が思い出された。当地における芭蕉の足跡を偲び一句。

石山の清水 潜くぐれる 紅葉哉

醫 縫 録

丹生郡医師会会長に就任して思うこと — 少子高齢化社会を考える —



丹生郡医師会会長 島田 政 則

平成26年5月24日の丹生郡医師会定時総会にて、私は丹生郡医師会長に選出された。前会長より、次期の医師会長就任依頼のお言葉を頂き、大変な名誉でありすぐにもお受けすべきだったが①私が開業医でない、②現在織田病院の顧問である、③前会長のように細部まできちんと処理するのはとてもできない、④高血圧症などで体力にも自信が無くなってきている等の理由でお断りした。しかし、渡辺恭行副会長の突然のご逝去などもあり、「年齢順ではやらないといけないかな」と考えるようになり、また5月11日理事会での織田病院津向院長の「事務局を織田病院におき、事務員を丹生郡医師会雇い（兼務）としてはどうか」という提案。伊部先生の「みんなで手伝いますよ。」との言葉も背中を押す事に。また平成8年織田病院長就任以来ずっとお世話になってきた丹生郡医師会への恩返しをしたい思いもあった。以上の次第で、医師会長をお引き受けした。

しかし元来浅学菲才の上、最近物忘れもひどくなり、行動力も落ちてきた。こんな私が、医師会長をやっているかという不安はあるが、一生懸命頑張り、あとは会員の先生方の協力の下「全員野球」で乗り切ろうと思っている。「私達医師は、今何をしなくてはならないのか？」慣れない電子カルテと悪戦苦闘しながら考える事がある。①我が国の高齢化の急速な進展、②その後2025年以降にやってくる人口の急激な減少特に地方の急速な人口減少、出産可能な女性の減少。私の4歳と1歳の孫達の顔を見て次第に「この高齢化、少子化の問題を政府にまかせっきりで良いはずがない」との思いが強くなった。「我々医師は医療を通じて、国民の健康、長寿と同時にこれからの日本を支える子供、若者に展望の持てる社会を準備する責任がある」と考えている。

私の外来から最近の1日を見てみるとその日は34名の患者を診察。男性8名、女性26名

高血圧症、糖尿病、心不全など。年齢の平均は男性72.04歳（84～59歳）、女性78.48歳（96歳～50歳）。患者さんの多くは1日数時間畑、山仕事に出かけ、孫の守りをし、町の集団リハーサルに参加する。これらが彼（女）らのストレス解消、リハビリ、友達との情報交換になっている。私も彼女達から、野菜作りのノウハウを教わり今もそれを実践している。この高齢者エネルギーを「介護を必要とする高齢者の介護の補助」「保育所保育の補助」等に活用すべきである。その活動を「ポイント制とし、将来必要な時、還元される」と言うのはどうだろうか。福井市に実践例（「シルバーママサービス」）もある。「日本で子供が生まれなくなった」と言って大騒ぎになったのは、1989年（平成元年）の事。この年日本の合計特殊出生率1.57で「1.57ショック」と呼ばれた。（人口問題研究所の推計1.76を大幅に下回った。）残念ながら日本は、これに驚いて子供が生まれやすくなったわけではない。2013年10月総人口は1億2730万人。前年より22万人減少、高齢者人口25.1%、0～14歳の年少人口12.9%（過去最低）。2012年スウェーデンの合計特殊出生率は1.90。フランスは2.01。仏では乳幼児の保育サービスは、施設保育と所定職業訓練を受けた保育ママによる施設や自宅での保育と充実。2011年合計特殊出生率アメリカ2.1、中国でさえ1.6だが日本1.4で生みにくい環境改善なし。この「1.57ショック」は、デモする事なく無言で国民が政府に突き付けたメッセージ（「産む性」を不当に扱い続けた男性社会への宣戦布告）（富士谷あつ子）。男女機会均等と地方創生に日本の運命が託される。我々もこの地で少子化対策に取り組まねばならない。